

光環境の測定のレポートについて

今回は、全体的に同じくらいの水準で仕上がっていたように思います。しかし、考察のところがやはり手薄になっているレポートもありました。課題が重なって大変かもしれませんが考察のところに十分時間をかけるように、上手に調整して、段取りを考えましょう。

- 1) はじめに、もしくは目的のところは、できるだけ自分なりの理解を、自分の言葉で書くようにしましょう。分量の面でも、もう少し書いて欲しいものです。
- 2) 測定点を示す平面図には、やはりどのような照明器具がどの位置にあるのかを記入して欲しいものです。照明環境の測定ですので、環境を左右する条件は、書き込んでおきべきです。
- 3) あまり必要でないところまでカラー印刷にしなくてもすむように、白黒だけの印刷でもあっても見やすくなるよう図や表を工夫しましょう。
- 4) 誤った変換、誤字脱字には、細心の注意を払いましょう。
- 5) 器差調整に関する実験について記述していない人がいました。これも書いておきましょう。
- 6) 実験の方法では、できるだけ「教科書や教材を参照」などとせず、概略は書着込みましょう。
- 7) 図のタイトルは下側に、表のタイトルは上側に。図表のタイトルは、それだけ見ても、理解ができるように、良さそうものを考えましょう。
- 8) 測定点の数が、少し少なかったかも知れません。早くはできましたが・・・。
- 9) 「でんきをつける」、「照明を点灯する」どちらがよいでしょう？
- 10) 等昼光率線を描いた図では、線の間隔をできるだけ揃えておいた方が比較する時に便利です。
- 11) 今回の実験では、室内の家具を外に出して実験していましたが、実際には机が置いてある地点での評価を、室全体の評価とは別に行ってみても良かったかも知れません。
- 12) 「照度」、「昼光率」や「均斉度」などの評価指標は、名前だけではなくできるだけ内容も理解した上で、用いましょう。
- 13) 評価基準については、必ず全てを載せなければならない訳ではないですが、関係する数値は記入しておきましょう。
- 14) レポートを書いている時点で、新たな追加実験をした方が良いと判断した場合は、是非、担当者に相談して下さい。
- 15) このような実験の場合、ほとんどの評価は相対的なものです。その場合は、「何と比べてどうだったから、何だ」ときちんとききましょう。
- 16) できるだけ、何故そうなるのか、について考察を深めましょう。図書館にある書籍なども参考にしましょう。